

音楽科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 荒井 佐和子

1 対象・日時 1年C組 令和8年1月24日(土) 1校時

2 本題材で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。</p> <p>②創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。</p>	<p>①リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>①音のつながり方を工夫して旋律をつくる活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に、創意工夫を生かし、創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>

3 題材「学校生活を彩るチャイムをつくろう」について

音楽科の学習には、表現及び鑑賞の学習があり、表現については、歌唱・器楽・創作と3つの分野を扱う。今回学習する創作は、他の分野で育成した力が最大限に生かされる学習ではないかと考えられる。例えば、歌唱や器楽の学習では、楽譜などから作品のよさや作者の意図をくみ取り、表現を創意工夫する学習を行ったり、鑑賞の学習では、曲想と音楽を形づくっている要素に関連させ、音楽を解釈したり価値付けたりする学習を行う。このような学習の過程で身に付けた資質・能力は、創作の学習において、自らの表したいイメージを、音や音楽で表現する学習に発揮される力となる。

本題材は、1学年で初めての旋律創作の学習となる。音のつながり方の特徴を生かして、4分の4拍子・4小節の旋律を創作する。生徒にとって身近な学校生活の中の音楽である「チャイム」に焦点をあて、学校のチャイムをつくることを通して、音や音楽に親しんでいく態度を養い、音楽科の目標である「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」の育成につなげたい。

学校のチャイムは、時間になると非常に短い音楽ではあるが、その旋律やリズムなどによって、学校生活を送る中での「時を知らせる音楽」となる。つまり、「チャイム」の旋律の創作を学習することを通じて、音や音楽が人々に与える効果についても学ぶことができると考え、本題材を設定した。

4 生徒の学びの履歴

入学時のアンケートでは、「音楽で好きな学習は何ですか」という質問に対して、「創作が好き」と答えた生徒は2割程度で、創作の学習に対して、どちらかという消極的に感じている生徒が半数以上いることが分かった。そのような実態を踏まえた上で、本題材に至るまでに行った創作の学習では、「表したいイメージを音で表現する即興的な創作表現」や「創作の条件に沿ったリズム創作」に取り組み、どのような音や音楽をつくるかについて思いや意図をもって表現する学習を行った。本題材では、これまでの学習を生かしながら、中学校では初めての旋律創作の学習に取り組む。第1時においては、これまでの鑑賞の学習と関連させ、曲想と音楽の構造との関わりについて触れながら、リズムや音のつながり方を様々に変化させたチャイムのサンプルを聴かせることで、どのような音や音楽が聴く人にどのような印象を与えるのかについて考えさせ、自らのイメージする旋律づくりに発展させたい。また、カトカトーン（創作アプリ）を活用することで、一つ一つの音にこだわりながら、思いや意図を音や音楽で表現することの楽しさを実感する学習につなげたい。

5 資質・能力育成のプロセス（4時間扱い、本時 は3時間目）

次	時	評価規準 (丸番号は、2の評価規準の番号)	【 】内は評価方法 及び Cと判断する状況への手立て
1	1	<p>態① 音のつながり方を工夫して旋律をつくる活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に、創意工夫を生かし、創作の学習活動に取り組もうとしている。(○)</p> <p>知① 音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。(○○)</p>	<p>【行動の観察】 【ワークシートの記述の確認】 C：自分の意見や考えが思いつかず、ワークシートに記述しない場合は、仲間の意見を記述させ、その意見を参考に考えるように促す。</p> <p>【ワークシートの記述の確認・分析】 C：リズムや音のつながり方に注目して聴くことを促し、どう感じたかを言葉で確認する。</p>
	2 3	<p>態① 音のつながり方を工夫して旋律をつくる活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に、創意工夫を生かし、創作の学習活動に取り組もうとしている。(○)</p> <p>知② 創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。(○)</p> <p>思① リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(○○)</p>	<p>【行動の観察】 【創作作品の確認】 C：表したいイメージを確認し、カットカートを活用し、音を出して試しながら取り組むように促す。</p> <p>【行動の観察】 【創作作品の確認】 C：課題や条件を確認し、カットカートを活用し、音を出して試しながら考えるように促す。</p> <p>【行動の観察】 【ワークシートの記述の分析】 C：仲間の意見を参考にしながら、表したいイメージと音楽の特徴を関連させ、思いや意図をもてるように促す。</p>
	4	<p>知② 創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。(◎)</p> <p>態① 音のつながり方を工夫して旋律をつくる活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に、創意工夫を生かし、創作の学習活動に取り組もうとしている。(◎)</p>	<p>【行動の観察】 【創作作品の分析】 C：創作した作品を聴いて、課題や条件に沿った表現になっているか確認させる。</p> <p>【行動の観察】 【ワークシートの記述の分析】 C：仲間の発表を真剣に聞くように促したり、自分の表現の参考にするように声かけする。</p>

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中にある，「時を知らせる音楽」を紹介し，普段学校生活で流れている「Fyのチャイム」の特徴や役割を考える。 <div data-bbox="150 405 820 506"> <p>【課題】 学校生活を彩る「チャイム」をつくろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 学習プランを通じて，題材の評価規準や学習計画など題材全体の見通しをもつ。 「通常のチャイム」と，「音のつながり方やリズムを変化させた幾つかのチャイム」を聴いて，「音楽のイメージ」と「音楽を形づくっている要素」との関わりを知覚・感受し，ワークシートに記述する。 どのような「チャイム」をつくりたいかイメージをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中の音や音楽について，意識させる。 個人で考えた後，グループで話し合ったり，クラス全体で共有したりする。 題材の目標や学習の流れを示し，見通しをもたせる。 知覚したことと感受したことの関わりについて，これまで学習したことを振り返り，創作の学習に生かすように促す。 音のつながり方（上行と下行，順次進行と跳躍進行，リズムの変化）の違いに着目して，それぞれをどのように感じるか，聴き取ったり感じ取ったりして，言語化できるようにする。 	1
<ul style="list-style-type: none"> 自らのイメージとそれを表現するための音楽の特徴をどのようにするかについて考え，思いや意図をワークシートに記述する。 カトカトーンを用いて音を出して試しながら，自らのイメージに近づく表現はどのようなリズムや音のつながり方がよいのかについて，思いや意図をもち創作する。 グループ内で，どのような「チャイム」をつくるかについての自らの思いや意図を伝え，創作途中の作品を発表する。 グループで，相互に作品を聴いた印象や感じたことを伝え，意見を交流する。 ワークシートに仲間の意見や，それを基に改善したいところを記述する。 仲間の意見を生かしながら，再び創作する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活をよりよくするための「チャイム」であることを再度確認し，ワークシートの記述内容を確認しながら，机間支援を行う。 様々な音や音のつながり方を試しながら，表現を工夫してイメージにつながるように，声かけをする。 創作している作品が，自らの思いや意図にあっているか，作品を再生し，確認しながら創作するように，声かけをする。 仲間の作品を認め合いながら，思いや意図にあっているかどうか，「チャイム」としての印象や感じたことを伝え合う雰囲気をつくる。 自分の作品を振り返り，さらに工夫が深まるように改善できることを考えさせる。 次時は，完成した作品を発表し合う活動であることを確認し，見通しをもって取り組ませる。 	2 3
<ul style="list-style-type: none"> 作品を完成させ，発表の準備を行う。 グループ内で，思いや意図を伝え合いながら，作品を発表する。 仲間の作品を聴いて，感じたことを伝え合う。 代表者数名は，クラス全体に発表する。 題材の全体を振り返りワークシートに記述する。 題材の振り返りをグループで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内でスムーズに発表が行えるように，声かけをする。 思いや意図が旋律に表れていて，音のつながり方に創意工夫が見られる作品を，全体に共有し，今後の学習に生かせるようにする。 題材を通して学んだことや身につけた力，今後の生活にどのように関わらせたり生かしたりすることができるかについて考えさせる。 	4

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

音のつながり方を工夫して旋律をつくる活動に関心をもち、自らの表したいイメージと創作した音楽を重ね合わせながら音楽に対する感性を働かせ、創意工夫を行い、創作表現に粘り強く取り組んでいる姿。



【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

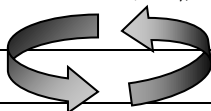
本題材の知識については、A表現(3)創作 イ(ア)「音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること」を目標として、指導及び評価を行う。音のつながり方とは、上行と下行、順次進行と跳躍進行、リズムの変化などを指し、第1時において、「通常のチャイム」と「音のつながり方やリズムを変化させた幾つかのチャイム」を比較して聴取する場面で、その音楽のイメージと関わらせて、知覚・感受したことをワークシートに記述させる。技能については、A表現(3)創作 ウ「創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること」を目標として、指導及び評価を行う。第1時で身につけた知識を生かしながら、自らの表したいイメージに近づけるための思いや意図をもち、カトカトーンを活用して旋律創作を行い、題材の終末で完成した作品を提出させ、課題や条件に沿った音の選択や組合せで創作しているかに留意して作品を分析し、総括的に評価する。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

A表現(3)創作 ア「創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること」を目標として、思考力、判断力、表現力等を身に付ける指導及び評価を行う。身近な学校生活の課題から、「学校生活を彩るチャイムをつくろう」という題材の課題を設定し、その解決に向けた創作活動を行う。音のつながり方を試行錯誤しながら、自らの作品を追究していくためには、第1時で、音楽の特徴とイメージの関わりについて理解した上で、第2時において、どのように音楽をつくるかについて思いや意図を言語化させる。その思いや意図を音楽で表現するために、どのような音のつながり方が適切かどうか、カトカトーンを活用しながら、創作活動を進めていく。第3時においては、小グループ内で仲間と思いを共有したり、途中経過の作品を発表して意見を交流したりすることで、自らの思いや意図を見直し、より確かなものにしていく。こうした学習の過程で、自らの思いや意図をワークシートに記述させ、その内容から、音楽を形づくっている要素の働きが生み出す特質や雰囲気を感じたり、知覚したことと関わらせたりして考えているかを分析し、総括的な評価とする。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

第1学年の目標(3)「主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う」を前提として、指導及び評価を行う。題材の導入では、普段何気なく流れている「Pyのチャイム」に着目させ、音楽としての特徴を捉えた上で、「生活の中の音や音楽」について意識が向かうよう指導する。また、旋律創作の過程においては、創作活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしているか、授業内の取組を観察し、継続的に形成的な評価を行う。そして、題材の終末において、「題材を通して学んだことや身につけた力、今後の生活にどのように関わらせたり生かしたりすることができるか」について考えさせ、ワークシートに記述させる。題材全体の取組の様子とワークシートの記述内容を分析し、総括的な評価とする。



【本単元の学習と「学習の基盤となる資質・能力」とのつながり】

- ・音楽を形づくっている要素を知覚したり、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じたりしながら、その関わりについて考え、どのように旋律を創作するかについて思いや意図をもったり、どう感じるかについて考えを深めることで、**言語能力**の育成につなげる。
- ・課題解決のための創作の場面では、カトカトーンを効果的に活用することを通して、**情報活用能力**の育成につなげる。
- ・題材全体を通して、学習の見通しを立てたり、それを振り返ったりしながら課題の解決に向かうことで、**問題発見・解決能力**の育成につなげる。